

研究概要報告書【音楽振興部門】

(1/4)

研究テーマ	舞踊音楽を通じた音楽の受容とその展開―東北地方における動向に着目して	報告書作成者	河内春香
研究従事者	河内春香		
研究目的	日本に洋舞が定着し、日本人舞踊家による公演が盛んに行われた時期を対象として、東北地方の舞踊公演で用いられたオーケストラ編成による舞踊音楽の実態を明らかにすることを目的とする。あわせて、東北地方のオーケストラ団体における演奏曲目とその変遷を調査・比較することで、同地域におけるオーケストラ音楽の受容、舞踊界と音楽界との関わり、およびその後の音楽文化の展開について、舞踊音楽を通して明らかにする。		

研究内容	江口隆哉の舞踊公演については、先行研究に基づき、日本女子体育大学に保管されている上演プログラム等の資料を調査し、舞踊作品における音楽の演奏形態や奏者について確認した。さらに、江口の作品《日本の太鼓》「狐けんばい」については、関連する公演パンフレット等を調査するとともに、作品創作の契機となった岩手県の民俗芸能、滑田鬼剣舞について、当時の民俗芸能保護の動きや東北地方における位置付けを含めて調査を進めている。 また、石井漠の地方公演および東北地方における演奏会記録については、これまで公演・演奏会の全体像を把握できるまとまった資料が少なかったため、これらが開催された地域の図書館等の協力を得て、地方紙に掲載された新聞記事や広告、郷土資料を調査した。これにより、公演日程、会場、1 日の上演回数、主催者等の具体的な情報の収集を進めた。また、秋田県三種町山本ふるさと文化館において、石井漠に関する展示資料、楽譜等を調査した。 このほか、東北地方における舞踊と音楽文化の形成について、仙台市を拠点とする作曲家、片岡良和と、片岡氏によって仙台フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督として招聘された芥川也寸志、仙台フィルハーモニー管弦楽団の活動についても資料調査を行った。
------	---

研究概要報告書【音楽振興部門】

(3/4,4/4)

研究のポイント	舞踊公演で用いられた音楽に着目することで、これまで着目されてこなかった戦後の東北地方における舞踊界と音楽界の関わりを明らかにする点に本研究の特徴がある。郷土資料、地方紙、上演プログラム、楽譜等の資料を調査し、舞踊公演の実態とオーケストラ団体の活動を関連付けて検討することで、東北地方におけるオーケストラ音楽の受容と、その後の地域の音楽文化の形成過程を明らかにすることを目指す。
研究結果	石井漠の地方公演について、地方紙等の調査によって、これまで不明であった公演日程、会場、主催者等の詳細が徐々に明らかになりつつある。2025 年度は熊害や雪害等の影響により現地調査の機会が限定されたものの、地方図書館への資料の照会や複写、相互貸借等を通じて、関連資料の収集・確認を進めることができた。また、三種町山本ふるさと文化館における調査では、石井漠に関する展示資料や楽譜等を確認した。同館には石井漠に関する主要な資料が保管されており、音楽関係資料を含めて現地で確認できたことは重要な成果であった。さらに、展示資料を通して、秋田県において石井漠が当時から現在に至るまで地域ゆかりの人物として大切にされ、関連する催し等も継続的に行われていることが確認できた。このことから、地方における資料保存や顕彰のあり方そのものが、研究対象を理解するうえで重要であることが明らかになった。 江口隆哉については、上演プログラムの調査から、舞踊作品における音楽の演奏形態や奏者に関する情報を収集した。また、江口の作品の一つである《日本の太鼓》「狐けんばい」について、岩手県の民俗芸能である鬼剣舞との関係を調査する中で、江口が参照した滑田鬼剣舞を含め、当時の民俗芸能をめぐる状況について検討する必要性が明らかになった。 あわせて仙台市を拠点に活動している作曲家、片岡良和と舞踊団体との調査を行う中で、舞踊作品の演奏に携わった奏者と、後の仙台フィルハーモニー管弦楽団の創設時のメンバーとの関係について調査を進めている。これに関連して、片岡良和が東北地方の作曲家の個展や仙台国際音楽祭等を開催し、芥川也寸志を仙台フィルの音楽監督として招くなど、その後の仙台の音楽文化の形成に重要な役割を果たしたことが確認された。これらは、地方都市が中央の文化を一方的に受容するだけでなく、地域の音楽家や団体を中心として独自の音楽文化を形成していった過程を考えるうえで重要な事例であり、その契機として舞踊音楽が重要な役割を果たしていた可能性がより高まった。

今後の課題	今後は、石井漠の公演および作品について、三種町山本ふるさと文化館に保管されている閉架資料の調査、地方紙等の調査を継続するとともに、ここから得られた情報を整理し、地方公演の実態をより具体的に明らかにする。また、関連する楽譜資料が確認された場合は、あわせて音楽についても詳細を明らかにする。 江口隆哉の公演および作品については、岩手県で舞踊公演が盛んに行われた背景について、交通事情や会場の音響設備、江口らの言説等についてさらに調査を進める。また、岩手県の民俗芸能である滑田鬼剣舞と、これに取材した江口の作品である《日本の太鼓》「狐けんばい」の関係について、作品創作時の民俗芸能の状況や無形文化財の保護、これらの動きにおける東北地方の位置付け等を含めて検討する。 仙台市における舞踊公演と音楽文化の発展については、片岡良和氏と舞踊団体との関係、彼らの活動をさらに調査するとともに、可能であれば片岡氏への聞き取り調査を実施し、舞踊公演およびこれに関わった演奏家、仙台フィルハーモニー管弦楽団との関係をより具体的に明らかにする予定である。
--------------	--



(写真 2) 三種町山本ふるさと文化館において確認した石井漠関連の展示資料。石井漠が秋田県において現在も地域ゆかりの人物として顕彰されていることを示す資料の一つである。

写真 3



様式-10